

てんでん虫とてんとう虫の車

及川ふみ

幼児のつくるおもちゃ、これは簡単な製作に、工夫の面白味があるものであるといふ事が、幼児をよろこばせる一つの大きな条件であります。又一つにはそのつくるものが、いつも幼児に、したしみのあるものであるといふ事も大きな関係のあるものであります。

先月号の本誌『五月の一週間』にもかきました通り林の組には、かたつむりや、てんとう虫、などをながらくかつてあります。幼児は朝な朝なの幼稚園の出入にも、又或は一日の遊びの間にも、それ等の前に立つて眺めたり、手をのばしていちづてみたりしてゐます。

こんなに幼児がよろこびもし、したしみもするものをおもちゃとして製作の材料にとり入れて見たいといふので案じ出したのが、このでんでん虫車と、てんとう虫車とであります。

つくり方順序

先づ挿圖の繪を、畫用紙八ツ切に謄寫します。
一、てんとう虫

謄寫した二匹の虫はきらないでそのまま、てんとう虫は、胴は橙色のクレヨンでぬり、七つの丸い斑點は黒のクレヨンか、墨でぬります。

頭は、墨のクレヨンでぬつて、大小四つの斑點は、白くのこしておきます。

背中の中央の線は、後から切り目を入れて、中央の斑點のところまできります。

胴の下に入れる箱は、幅一六センチ、長さ一二センチ、深さニセンチの浅い箱を作つて、箱全體を緑のクレヨンでぬります。この箱をてんとう虫の左右のきりこみの中に入

れます。

ヒゴで車の心棒をつくつて、車の外側はゴムでとめて、適當のところへ糸をつけてひけば、てんとう虫の車はうごきます。

二、でんでん虫

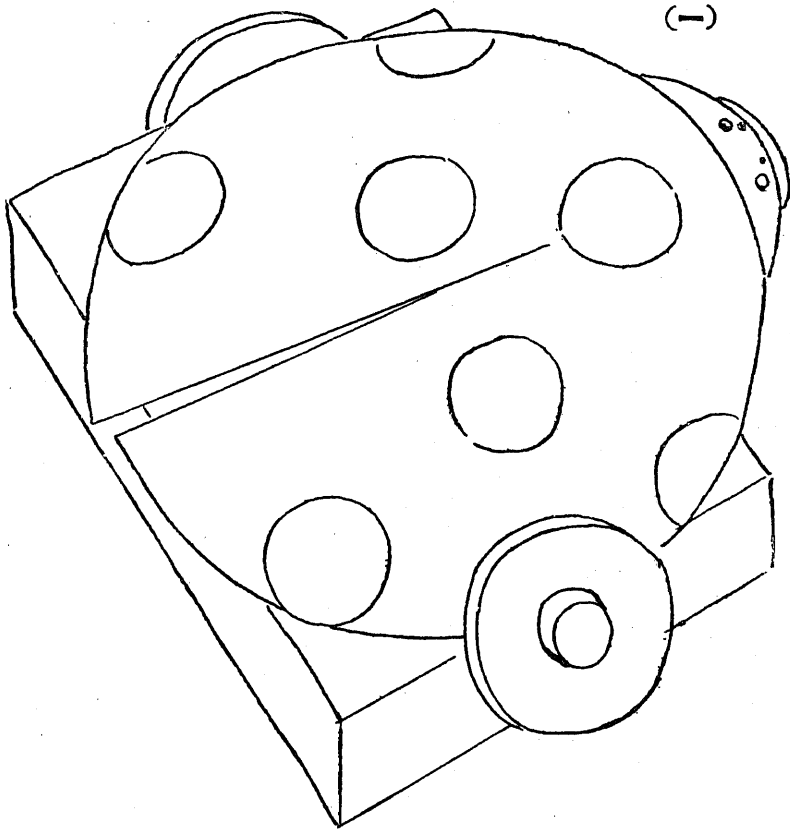
黄色いクレヨンで全體をぬつて、二重の線になつてゐるところは黒のクレヨンか、墨でぬります。

頭

頭のさきには畫用紙のきりくずで二本の角をこしらへて適當の場所へはります。

頭と胴のつけねのところは、一センチ半ばかり、頭の中央の線をきつて二つに開いて胴へはりつけます。

でんでん虫の、胴の下へつけ



る箱は、てんとう虫の胴の箱と寸法もつくり方も、全々同じくいたします。

(一)、(二)圖は出来上り圖
(三)圖は八ツ切書用紙一パイに擴大すること

